

# 2024年度 事業計画

# 目次

- 【建学の精神と将来像】 ..... ②

---

- 1 教育改革 ..... ③
  - (1) 女子栄養大学 ..... ③
  - (2) 女子栄養大学短期大学部 ..... ⑦
  - (3) 香川調理製菓専門学校 ..... ⑨
- 2 法人改革 ..... ⑫
  - (1) 人材育成と組織体制の整備 ..... ⑫
  - (2) 附帯・補助活動事業および収益事業の整備 ..... ⑫
  - (3) ガバナンス・情報公開の整備 ..... ⑭
  - (4) 危機管理体制の整備 ..... ⑭
  - (5) 校舎・施設整備 ..... ⑭
  - (6) 卒業生とのネットワーク・社会連携 ..... ⑮

---

- 3 財政改革 ..... ⑮

---

- 予算編成にあたって ..... ⑮

---

## 【建学の精神と将来像】

建学の精神	食により人間の健康の維持・改善を図る。
使命・目的	故香川昇三の遺志に基づき、国民の栄養生活改善を通じて生活の合理化を図り、もって日本文化の振興に寄与するため、教育基本法及び学校教育法に従い学校教育を行うことを目的とする。
教育理念	栄養学に基づいた食を通じて、建学の精神を実践できる専門家を育成する。
スクールモットー	食は生命なり
学園の将来像	<p>学生・生徒の確保と安定的な経営基盤を確固たるものとし、建学の精神（「食により人間の健康の維持・改善を図る」）具現化のために「食と健康」に関わるさまざまな課題を解決できる発信をしていく。</p> <p>◆「安定した運営」</p> <p>1) 安定した財政運営の学園 2) 将来構想を実現できる基盤を備えた学園</p> <p>◆「発信できる学園」を学園の中期ビジョンとして以下を目標とします。</p> <p>1) 教育と研究の成果を社会に還元できる学園 2) コンプライアンスを確立している学園 3) 情報共有できる学園 4) 情報公開できる学園</p>
第二期中期計画の基本方針・重点項目	<p>第一期中期計画の基本方針を継続し学生・生徒の確保を基本として収入の多様化を図り、一方で人件費をはじめとする支出の効率化を図り学園経営を行う。また、学校法人の社会的な公共性を鑑み学園事業における社会的責任（CSR）を全うすることにより、次世代社会の発展に貢献する。</p> <p>第二期中期計画の重点項目：学校法人香川栄養学園は基本方針を達成する為、「教育改革」「法人改革」「財政改革」の3つの改革を設定し実施する。</p> <p>【1】教育改革：栄養学のパイオニアである本学の教育を発展させると共に教育を支える研究環境、教育支援環境の整備も平行し実施する。</p> <p>①カリキュラム改革②入試改革③学生支援拡大④研究時間の確保⑤外部資金の確保⑥FD/SDの充実</p> <p>【2】法人改革：大学院・大学、短大部、専門学校の教育事業および生涯学習・附帯事業、収益事業の事業部の改革を実施する。</p> <p>①人材育成と組織体制整備②附帯・補助活動事業および収益事業の整備③ガバナンス・情報公開・危機管理整備④校舎・施設整備⑤卒業生ネットワーク・社会連携</p> <p>【3】財政改革：18歳人口減少期における学園財政の改革を実施する。</p> <p>①財源確保②支出見直しと重点配分</p>

1 教育改革

(1) 女子栄養大学

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>①【カリキュラム改革】</p> <p>①-1 事前事後学修を有意義なものとする為に、1年間の上限単位数の見直しと科目のスリム化</p> <p>①-2 CAP外の科目の在り方について見直し</p> <p>①-3 外部調査結果を学科の教育に反映できるよう、IR等でデータの利用の検討を行う。また、学生には、調査結果のフィードバックの活用方法について、周知徹底</p> <p>①-4 アセスメント・ポリシーに沿った実施計画に基づき、学修成果の点検・評価を進めることで、個別の改善にとどまらず、教育課程の編成や3ポリシーの検証・見直しを検討</p> <p>①-5 効果的な教育を行うために実施している取組の実態を整理し、体系的・継続的に工夫する仕組みについて検討</p>	<p>教学 A-2</p>	<p>2024 年度</p> <p>2024 年度</p> <p>2024 年度</p> <p>2024 年度</p> <p>2024 年度</p>	<p>①-1 2025年度に向けて、科目のスリム化と一年間の上限単位数を適正化できるように2024年度末までに論議する。なお、科目のスリム化は、学部共通開設科目である基礎・教養科目を中心に論議し、現状の24単位以上の修得から50～60%程度の修得単位数とするスリム化を目標とする。</p> <p>①-2 上記①-1の改善を行うことで、2024年度末までに夏期および春期の実験・実習の集中開講を減らす時間割編成を行い、CAP外の科目を見直す。</p> <p>①-3 IR推進部会で学内データの利活用についての検討を踏まえ、学生の授業の振り返りの入力について教員からの働きかけを徹底し、教育・カリキュラム改革に活用できるデータの確保を図る。</p> <p>①-4 教育課程の編成や3ポリシーの検証・見直しを2024年度末までに図っていく。</p> <p>①-5 学部については、2024年度中に実態をもとに効果的な教育を行うための取り組みを体系的・継続的に検討できる体制を整え、論議を開始する。</p>	<p>学科長会議</p> <p>坂戸教務学生部（学部教務課）</p>
<p>②【入試改革】</p> <p>②-1 大学院</p> <p>②-2 学部</p> <p>(1) 入試選抜方法の見直し</p> <p>受験生が出願しやすい条件や体制などを見直し検討を行い、志願者増→入学につながる総合的な入試選抜体制を整える。</p> <p>(2) 学生募集の強化</p> <p>①がイグニスや高校訪問の強化</p> <p>②広報関連イベントの見直しや新規企画の検討</p> <p>③情報発信の見直しと強化（HP、媒体紙、その他）</p>	<p>教学 A-3</p>	<p>修士課程入学定員の充足</p> <p>・定員の充足</p> <p>・高校内がイグニス参加 350校（2023年度実績見込：316校）</p> <p>・会場がイグニス参加</p>	<p>②-1 大学院修士課程の入学定員の充足に向けて、特に学部からのストレート進学を促進を図るために、学部生の新学期ガイダンスにおける大学院進学に向けての周知及び学部生向けの大学院説明会や個別相談を実施する。</p> <p>(1) 入試選抜方法の見直し</p> <p>受験生が出願しやすい条件や体制などを見直し検討を行い、志願者増→入学につながる総合的な入試選抜体制を整える</p> <p>(2) 学生募集の強化</p> <p>①がイグニスや高校訪問の強化</p> <p>②広報関連イベントの見直しや新規企画の検討</p> <p>③情報発信の見直しと強化（HP、媒体紙、その他）</p>	<p>大学院研究科委員会</p> <p>坂戸教務学生部（大学院教務課）</p> <p>入試広報課</p> <p>入試委員会</p>

<p>(3) 入学者の確保 認知度、知名度の向上</p>		<p>50校(2023年度実績見込:44校)</p> <p>・オープンキャンパス参加数(保護者除く)</p> <p>坂戸:2,500人 (2023年度実績見込:2043人)</p> <p>駒込:300人 (2023年度実績見込:255人)</p>	<p>(3) 入学者の確保 認知度、知名度の向上</p>	
<p>③【学生支援拡大】</p> <p>③-1 学生相談室の充実</p> <p>③-2 学生ヒアリング調査の実施</p> <p>③-3 大学独自の奨学金の改定</p> <p>③-4 就職先ごとに内定者のアセスメントテストのデータを集積し、分析を行い、必要な支援の実施により就職満足度を向上</p> <p>③-5 女性の主体的な生き方を実現するキャリア教育を強化</p> <p>③-6 キャリア教育として主要な「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育み主体的に働き方・生き方を選択できるよう支援</p> <p>③-7 無線LAN環境の改善(アクセスポイント更新、MAC認証システムの導入)</p>	<p>教学 A-4</p>	<p>2024年度</p> <p>前後期各2回</p> <p>2024年度</p> <p>2024年度</p> <p>2024年度</p> <p>2024年度</p> <p>アクセスポイント63基を更新</p>	<p>③-1 学内関連部署等と連携して、学生が抱えている悩みや問題を解決し、有意義な学生生活を送れるように整備する。</p> <p>③-2 調査を実施し、大学の教育及び学生生活の改善に取り組む。</p> <p>③-3 大学独自の奨学金について貸与から給付に切り替え、優秀かつ経済的事実のある学生の救済、支援をする。</p> <p>③-4 業種、職種、企業ごとに内定者のデータ分析を行い、内定ライン、必要なスキルを明確にする。学生に対してエビデンスに基づいた就職支援を実施する。</p> <p>③-5 職業選択や結婚・出産などの人生の節目、その後の職場復帰なども含めたキャリアデザインを考える機会を提供する。そのうえで、一人ひとりのセルフエンパワーメントを引き出していく。女性が活躍できる進路の見つけ方について情報提供を行い、主体的な生き方が出来るよう支援する。</p> <p>③-6 自立性強化を促すために、キャリアに主要な4つの能力について正しく理解し、能力を身につけ発揮できるよう講座、セミナー等を実施する。</p> <p>③-7 iPadの必携化も2年度目となり、2学年が同時に授業で活用することになるため、2011年度～2015年度に導入したアクセスポイント63基の更新</p>	<p>坂戸教務学生部(学生生活課)</p> <p>坂戸教務学生部(坂戸就職課)</p> <p>情報ネットワーク課</p>

	<p>③-8 学生用 PC 利用施設の機器リプレース</p> <p>③-9 チャットボット利用環境改善</p> <p>③-10 日本十進分類法新訂 10 版への移行</p> <p>③-11 電子ツールの利用促進</p> <p>③-12 図書館システム『ネオシリウス』のクラウド化</p> <p>③-13 健康情報収集・管理・共有の効率化と活用</p> <p>③-14 メンタルケアの充実</p>	<p>教学 A-4</p> <p>教学 A-5</p> <p>教学 A-4</p>	<p>により処理性能及び同時接続性能を強化し、さらに一度認証すれば一定期間は再認証不要とするための MAC 認証の仕組みを導入する。</p> <p>③-8 学生用 PC 利用施設 (i パーク) の PC の更新を行う (全 138 台)。但し iPad や PC などを持ち込んだ際の利用環境の改善 (使用スペース、電源環境、印刷環境) のため、配置台数については再考する。</p> <p>③-9 昨年度はチャットボットの利用定着のため登録場所 (出現場所) を検討したが、さらに使い勝手を向上させるため、他のツールとの連携機能の調査、検討を行う。</p> <p>③-10 昨年度より取り組んでいる、本学採用の日本十進分類法新訂 7 版 (1961 年刊行) から最新の最新の新訂 10 版 (2014 年刊行) への移行を完了させる。移行完了により、現在の社会情勢を反映した図書の分類となり、利用者の利便性がさらに高まる。</p> <p>③-11 電子書籍やデータベースについて、さらなる利用促進を行い学外での学修・研究支援を強化する。具体的には、電子書籍のミニガイドンスや QR コードを付けたポスターでの紹介を実施予定。また、データベースについては、ゼミ単位でガイドンスが受講できるよう募集方法を工夫し、受講者数を増やす。</p> <p>③-12 オンプレミス (サーバー) 型保守契約終了に伴い、クラウド型へのリプレースを実施する。移行後は、サーバー管理や耐用年数に縛られない安定的な利用環境を実現できる。</p> <p>③-13 健康情報のペーパーレス化と共有 保健センターマイページの拡充と継続可能性の確保 情報システム達成率は 2021 年度を 50% と想定し、2025 年度までに完了させる。</p> <p>③-14 学生の多様化にともないメンタルケアを充実させる。 健康上支援を要する学生を的確に抽出し、情報共有ツールを活用しながら早期に対応する。</p>	<p>大学図書課</p> <p>図書館 (大学図書館課・駒込図書館課)</p> <p>保健センター</p>
--	---	---	---	---

<p>④、⑤ 【研究力強化・外部資金確保】 外部資金獲得に向けた研究力強化のための体制整備</p> <p>⑥ 【FD/SD の充実】</p> <p>⑥-1 教員人事計画の策定に備えた教員配置の見直し・改善</p> <p>⑥-2 全教職員に階層別・業務別ごとの特性を踏まえた知識・能力の向上を目的とした研修を実施する。</p> <p>⑦ 【教学組織マネジメントの改善】</p> <p>⑦-1 学長室会議を中心とした教学マネジメントの体制の充実</p> <p>⑦-2 内部質保証推進体制の構築</p> <p>⑧ 【情報発信・社会貢献】</p> <p>⑧-1 学園の魅力や特徴・最新の動向を伝える認知度向上の情報発信</p> <p>⑧-2 教育支援活動を通じて栄養学の魅力を発信</p> <p>⑧-3 建学の理念に基づいた社会連携活動、社会貢献活動の推進・発信</p> <p>⑧-4 SDGs に着目した社会連携活動、教育研究活動の推進・発信</p>	<p>教学 A-7</p> <p>教学 A-8</p> <p>教学 A-9</p> <p>教学 A-7・法人 E-1</p>	<p>行動目標申請率 100%（全教員による申請）</p> <p>学長室会議関連での 検討回数 20 回以上 （実績 R3：8 回、 R4:31 回） 計画の実施率 80% 以上</p>	<p>学長室会議の下に設置された「研究推進・評価会議」で 2023 年度に研究推進に向けた方策をとりまとめた報告書に基づき、新たに「研究に関する行動目標申請書」を教員に求める仕組みを導入する。あわせて、モニタリング・評価を行う仕組みの構築に向けた組織体制について検討する。</p> <p>⑥-1 収容定員や現行の配置状況等を参照し、教員配置計画を作成する。あわせて、教員グループ・分野所属の見直しを行う。</p> <p>⑥-2 ハラスメント防止研修を毎年実施する。 私学法改正に関する研修（主に管理職を対象）を実施する。 障がい学生支援に関する研修（合理的配慮研修）を実施する。</p> <p>⑦-1 学長室会議の組織体制の充実を図り、重要課題に対し方向性の検討・提示を行うことのできる仕組みを検討し、試行することで、検討の機会の充実を図る。また、さらなる社会状況の変化にしなやかに対応していけるよう、2040 年に向けた教育研究に関する長期ビジョンの検討を進める。</p> <p>⑦-2 2023 年度から新たに設置した内部質保証推進委員会の下、自己点検・評価の際に点検結果から改善・工夫の方向性を抽出し整理した改善計画を着実に実施する。また、今年度が全学的に自己点検・評価作業を実施する 2 回目となることから、より効率的な運営体制に整えていくとともに、IR 推進活動の体制も機能的に整えていく。</p> <p>⑧-1 学園ホームページのリニューアルに伴い（2024 年 5 月稼働予定）、各部署、各学科による情報発信へと移行する中で、本学園の魅力や特徴、最新の動向を情報提供・情報発信する。</p> <p>⑧-2 大学（院・短大部含む）ウェブサイト及び学園ウェブサイトにより、付帯施設等の掲載内容を企画・調整し、問題点・課題点を抽出しながら更新・改善を行い、各コンテンツを充実させる。</p> <p>学園の認知度アップのために学内での取り組みや最新の情報を広く伝えるためにプレスリリースを強化していく。</p>	<p>学長室（学長事務課、研究支援課）</p> <p>学長事務課、学長室会議</p> <p>総務課</p> <p>学長事務課、学長室会議</p> <p>学長事務課、内部質保証推進委員会</p> <p>広報部（学園広報課・社会連携課）</p>
--	--	---	--	--

			<p>学園誌『香窓』による卒業生を中心とした「学園のいま」を伝える情報発信。</p> <p>⑧-3 香川綾記念講師派遣事業による教育支援活動の実施内容を整理・発信するとともに、講師の派遣先である高等学校、自治体関連、企業等への学園の動向を伝える機会として活用する。</p> <p>本学の持つ教育・研究分野の知見を地域・社会に広く還元し、その発展に寄与すると共に、学生・生徒の取り組みへの参加を通じて、社会連携・社会貢献に関わることで、実学教育の場における実践力の養成に繋がる取り組みを行い、それらの取り組みをホームページ・SNS・プレスリリース等を通して最新の情報を発信していく。</p> <p>⑧-4 本学の社会連携活動及び教育・研究分野の取り組みをSDGsの各目標に関連させて収集、整理して、ホームページ・SNS等で積極的に発信していく。</p>	
--	--	--	---	--

(2) 女子栄養大学短期大学部

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>①【カリキュラム】</p> <p>カリキュラムは常に見直しているが、令和7年度入学生を対象として栄養士資格取得単位の見直しを行っている。このカリキュラム内容の運用に向けた検討を行う。</p>	<p>教学B-1</p>		<p>①-1【カリキュラムの決定】</p> <p>カリキュラム委員会及び2023年度女子栄養大学短期大学部再編推進会議で検討している2025年度入学生対象のカリキュラムを決定していく。</p> <p>応用調理学実習の名称変更し和洋菓子等の実習を多く組み入れる等、学生が興味を持つような授業内容プログラムを構築し、在学生の履修意欲を向上させるとともに、実際の授業内容を可視化することで学生募集にも繋げていく。また、2024年度の授業内容に可能であれば加える。</p> <p>①-2【長期履修制度】</p> <p>社会人入学生が多くなってきていることから長期履修制度利用学生のニーズを踏まえた授業時間割の配置について検討していくことと同時に、履修科目数による学納金の検討も必要になる。2025年度入学生を対象とする場合には早々に着手していく。</p>	<p>カリキュラム委員会</p> <p>短期大学部再編推進会議</p>
<p>②【学生支援】</p> <p>②-1【学生活動の拡充】</p>	<p>教学B-2</p>		<p>②-1【学生交流による学生活動】</p>	<p>学生生活委員会</p>



<p>学生間の交流となるデイキャンプ、学園祭の促進およびクラブ活動運営の復活 或いは新規発足させることによる学生活動の充実に繋げる。</p> <p>②-2【キャリア選択に直結する実践的支援の強化】</p> <p>大学生と比べてキャリアについて考える時間の少ない短大生に対して、各自がより具体的な将来像を見据え行動に移せる支援体制を構築する。効果として、就職選考で「競り勝つ力」、「就職満足度のアップ」などが期待される。</p> <p>②-3【個々の状況に即した社会人支援を整える】</p> <p>「現役生（高校新卒）と社会人（職業経験者等）」と大きく2つに分けていた支援方法を社会人においてはより個々に即した形でサポートしていく。理由として、近年社会人入学が増加傾向にあるが、年齢の幅が広く、卒業後の進路希望も異なる。入学直後より、状況を細かく把握しサポートの最適化を図る。</p> <p>②-4【学生支援】</p> <p>無線 LAN 環境の改善（アクセスポイント更新、MAC 認証システムの導入）</p> <p>学生用 PC 利用施設の機器リプレース</p> <p>チャットボット利用環境改善</p>		<p>アクセスポイント 14 基を更新（香川調理製菓専門学校と共用）</p>	<p>学生間の交流の場としてデイキャンプ、学園祭の学事に加えクラブ等の活動が挙げられる。</p> <p>短大の2年間の学生生活で引き継いでいくことが難しいが、クラブ活動についてはここ数年全く機能していない状況である。2024年度からクラブ活動が再開できるように指導し、側面からサポートしていく。</p> <p>学園祭では学生数が減少している中で、学生が主体となって活動ができるような実行委員会を再編するように導いていく。</p> <p>2025年度デイキャンプは学生の満足度を上げるため、本来の目的である「友達作り」とするため2024年度中に内容を検討していく。</p> <p>【支援講座の開催方法等の改善と工夫】</p> <p>授業の関係で土曜日や不定期日程で散発的に開催していた各種講座やセミナーを平日の授業日に移し参加し易い形にし、実践力を上げていく。</p> <p>身近な将来モデルとして就職支援講座の中で、実社会で活躍する卒業生に講演頂く機会を設けていたが、一步踏み込み正課授業内に招聘し、具体的なキャリアと学修を結び付けていく。</p> <p>【定期的な状況把握と希望に沿った的確なフォローアップ】</p> <p>社会人に対しては、入学背景、希望進路も異なることから、マスではなく個の対応を実施していく。必要に応じて、社会人経験者向けガイダンスや求人紹介を行い、現役生とは異なる支援を実施する。</p> <p>2013年度～2016年度に導入したアクセスポイント14基の更新により処理性能及び同時接続性能を強化し、さらに一度認証すれば一定期間は再認証不要とするためのMAC認証の仕組みを導入する。</p> <p>学生用PC利用施設（iパーク）のPCの更新を行う（全20台・香川調理製菓専門学校と共用）。また坂戸キャンパスの管理システムの配下に組み入れることで、運用管理コストの削減を果たす。</p> <p>昨年度はチャットボットの利用定着のため登録場所（出現場所）を検討したが、さらに使い勝手を向上させるため、他のツールとの連携機能の調査、検討を行う。</p>	<p>情報・ネットワーク課</p>
--	--	--	--	-------------------

<p>②-5【教育支援・学修支援】</p> <p>日本十進分類法新訂 10 版への移行</p> <p>図書館資料の利用促進</p> <p>図書館システム『ネオシリウス』のクラウド化</p> <p>健康情報収集・管理・共有の効率化と活用</p> <p>メンタルケアの充実</p>			<p>昨年度より取り組んでいる、本学採用の日本十進分類法新訂 7 版（1961 年刊行）から最新の最新の新訂 10 版（2014 年刊行）への移行を完了させる。移行完了により、現在の社会情勢を反映した図書の分類となり、利用者の利便性がさらに高まる。</p> <p>資料の貸出・館内利用を促進する。豊富な資料をより活用した自習・グループ学修ができるよう促していきたい。</p> <p>また、専門分野に関連する資料に加え、教養的な資料、社会人になるにあたって必要な知識などについてもあわせて紹介する。紙の本だけでなく非来館利用できる電子書籍についてもひろく周知していく。具体的な方法としては、ミニガイドンス、企画展示による資料紹介や書庫内サインの拡充を実施予定。オンプレミス（サーバー）型保守契約終了に伴い、クラウド型へのリプレースを実施する。移行後は、サーバー管理や耐用年数に縛られない安定的な利用環境を実現できる。</p> <p>健康情報のペーパーレス化と共有 保健センターマイページの拡充と継続可能性の確保</p> <p>情報システム達成率は 2021 年度を 50%と想定し、2025 年度までに完了させる。 学生の多様化にともないメンタルケアを充実させる。 健康上支援を要する学生を的確に抽出し、情報共有ツールを活用しながら早期に対応する。</p>	<p>図書館（大学図書館課・駒込図書館課）</p> <p>図書館（駒込図書館課）</p> <p>図書館（大学図書館課・駒込図書館課）</p> <p>保健センター</p>
--	--	--	---	--

(3) 香川調理製菓専門学校

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>①【カリキュラム改革】</p> <p>カリキュラム・授業（実習・座学）内容を検討し、2025年4月からの新カリキュラムを作成し、学則変更の届け出をおこなう。</p> <p>他校との差別化を図り、効率的な運営・教育効果のある内容とする。</p> <p>各学科定員の生徒を確保し、財務状況の改善と安定的な学校経営を実現させる</p> <p>就職先企業との連携強化(企業奨学金の拡大・特別授業担当の拡大)</p> <p>企業奨学金協力企業を3年後には 20社を目標とする</p> <p>また、連携強化企業からの実習特別講師の派遣を協力いただく回数を多く依頼し、生徒の教育内容の連携・就職指導の支援を強める。</p>	<p>教学 C-1</p>	<p>2024 年 4 月完成</p> <p>320 名の入学者</p> <p>企業奨学金 12 社</p> <p>実習特別講師派遣 和洋中・給食 10 社 製菓・製パン 6 社</p>	<p>教育効果を下げない効率的なカリキュラムの削減案を4月までに作成し、学校教員会議にて審議・承認を得る。学内の起案の承認を経て、学則変更書類を提出する。</p> <p>各学科すべての定員確保を目指す。</p> <p>協力企業が現在 10 社となっている。2024 年度中に 2 社追加し年度内 12 社を目標とする</p>	<p>専門学校教務学生課</p>

		退学者 10名以内		
<p>②【学生支援】</p> <p>学習支援・全員卒業を目標とする。退学者の減少を目指す。 また日常の調理・製菓実習のデモの様子を撮影・動画配信し、自宅学習の補助とする。</p> <p>生活指導と保護者との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、手洗い、身だしなみの指導徹底で 学校評価と就職率向上に繋げる。保護者との関係・連絡体制（面談会・coco メール他）を継続実施し、さらに信頼関係を強化する。保護者会の開催を年 2 回から 3 回に増やす。オンラインも活用する・教職員全員で「心の悩み研修」などを受講し、生徒対応に役立たせる。</li> </ul> <p>就職指導・支援・就職内定率 100%目標・就職状況を広くHP等で広報する。新たに卒業生支援のための方策を開始する。卒業生への情報発信の構築・離職者の相談・中途採用情報の発信などを行い、数年後には 1000 名規模のネットワークとなる予定となる。</p> <p>香流会の活動内容の精査・討議とグルメガイドブックの有効活用とHPへの掲載</p> <p>無線 LAN 環境の改善（アクセスポイント更新、MAC 認証システムの導入）</p> <p>学生用 PC 利用施設の機器リプレース</p> <p>チャットボット利用環境改善</p>	<p>教学 C-2</p>	<p>2023 年度登録 180 名 累計 360 名</p> <p>2024 年度中に HP で公開 2024 年 7 月までに検討する</p> <p>アクセスポイント 14 基を更新（女子栄養大学短期大学部と共用）</p>	<p>生徒指導の統一化・均一化。 動画の活用について、VR 業者と打ち合わせを継続実施中</p> <p>挨拶、手洗い、身だしなみの指導徹底を年間通じて実施する保護者との関係・連絡体制（面談会・COCO メールでの情報発信）を実施し、保護者会・保護者面談会を年 2 回行う。</p> <p>就職内定率 100%を目標とする 卒業生支援を新規に開始し、調理・製菓の人材バンクを構築する</p> <p>現在は冊子のみであるが、HP に掲載することにより、より多くの方に知っていただく。香流会の活動内容については、現役員で精査し、検討をおこなう。</p> <p>2013 年度～2016 年度に導入したアクセスポイント 14 基の更新により処理性能及び同時接続性能を強化し、さらに一度認証すれば一定期間は再認証不要とするための MAC 認証の仕組みを導入する。。</p> <p>学生用 PC 利用施設（i パーク）の PC の更新を行う（全 20 台・女子栄養大学短期大学部と共用）。また坂戸キャンパスの管理システムの配下に組み入れることで、運用管理コストの削減を果たす。</p> <p>昨年度はチャットボットの利用定着のため登録場所（出現場所）を検討したが、さらに使い勝手を向上させるため、他のツールとの連携機能の調査、検討を行う。</p>	<p>情報ネットワーク課</p>
<p>③【教育支援・学修支援】</p> <p>日本十進分類法新訂 10 版への移行</p> <p>図書館資料の利用促進</p>	<p>教学 C-2</p>		<p>①昨年度より取り組んでいる、本学採用の日本十進分類法新訂 7 版（1961 年刊行）から最新の最新の新訂 10 版（2014 年刊行）への移行を完了させる。移行完了により、現在の社会情勢を反映した図書の分類となり、利用者の利便性がさらに高まる。</p> <p>②資料の貸出・館内利用を促進する。豊富な資料をより活用した自習・グループ学修ができるよう促していきたい。</p>	<p>図書館（大学図書館課・駒込図書館課）</p> <p>図書館（駒込図書館課）</p>

<p>図書館システム『ネオシリウス』のクラウド化</p>			<p>また、専門分野に関連する資料に加え、教養的な資料、社会人になるにあたって必要な知識などについてもあわせて紹介する。紙の本だけでなく非来館利用できる電子書籍についてもひろく周知していく。具体的な方法としては、ミニガイドンス、企画展示による資料紹介や書庫内サインの拡充を実施予定。</p> <p>③オンプレミス（サーバー）型保守契約終了に伴い、クラウド型へのリプレースを実施する。移行後は、サーバー管理や耐用年数に縛られない安定的な利用環境を実現できる。</p>	<p>図書館（大学図書館課・駒込図書館課）</p>
<p>健康情報収集・管理・共有の効率化と活用</p> <p>メンタルケアの充実</p>	<p>教学 C-2</p>		<p>健康情報のペーパーレス化と共有</p> <p>保健センターマイページの拡充と継続可能性の確保</p> <p>情報システム達成率は2021年度を50%と想定し、2025年度までに完了させる。</p> <p>生徒の多様化にともないメンタルケアを充実させる。</p> <p>健康上支援を要する生徒を的確に抽出し、情報共有ツールを活用しながら早期に対応する。</p>	<p>保健センター</p>
<p>④【FD/SDの充実】</p> <p>全教職員に階層別・業務別ごとの特性を踏まえた知識・能力の向上を目的とした研修を実施する。</p> <p>中期計画の方針に従い、香川調理製菓専門学校の将来像について共通理解する。</p> <p>教員の研修参加を積極的に促し、個々人の能力向上を継続させる</p> <p>年功序列でなく、実行力・責任感・リーダーシップを考慮し、設置基準に準拠し、将来を見据えた組織作りをおこなう</p>	<p>教学 C-3</p>		<p>ハラスメント防止研修を毎年実施する。</p> <p>私学法改正に関する研修（主に管理職を対象）を実施する。</p> <p>障がい学生支援に関する研修（合理的配慮研修）を実施する。</p> <p>中期計画の方針に従い、香川調理製菓専門学校の将来像について共通理解を図る。同時に学校内で討議を行う</p> <p>教職員の人数が減った時に、日々の教育運営をどのように実施するか知恵をだしあう。業務改革のチャンスと前向きにとらえ経営基盤の安定・教育内容のさらなる授実のための施策を検討する。</p>	<p>総務課</p> <p>専門学校教務学生課</p>

2 法人改革

(1) 人材育成と組織体制の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
①「人材育成ビジョン」を踏まえた体系的SD研修の計画と実施	法人 A-1		①本学職員が各ステージ（階層別）で求められる能力を習得、研鑽し成長するための体系的なSD研修を計画する。	総務課
②人事考課制度の導入	法人 A-1		②職員の待遇面での公平性をはかり、個々人のモチベーションを引き上げることを目的に人事考課制度を導入する。今年度、制度設計を行う。	
③職員の採用、昇格・昇任など人事関係の規程化	法人 A-2		③職員の採用、昇格・昇任の規程整備を行う。	
④諸規定の見直しと整備	法人 A-2		④関連法令の改正に伴い、就業規則、育児休業規程等の整備・見直しを図る。法改正に合わせ、規程改定が実施できる体制（外部委託など）の検討を行う。	
⑤中期的な採用計画、人事計画の策定	法人 A-1		⑤定年退職者の補充を含めて、中期的な採用計画や人事計画を具体的に策定する。	
⑥昇格試験制度の導入と人材育成	法人 A-1		⑥課長補佐から課長代理への昇格試験制度を導入し、広い視野と柔軟な発想を持って新たな課題に挑戦できる人材育成を行う。	

(2) 附帯・補助活動事業および収益事業の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
①『栄養と料理』サブスク会員制度の創設による、『栄養と料理』収支改善とデジタル化への促進を図る。	法人 B-1	2024年度2000名会員獲得で、『栄養と料理』の収支改善が見込める。将来的に1万人を目標とする。	①-1 デジタル版『栄養と料理』を、月額払いのサブスクとして販売。バックナンバー4年分が見放題、一部書籍が読み放題、各種セミナー優待割引または無料など、特典を付加して会員登録を推進し、出版部、ひいては女子栄養大学のファンを囲い込み、安定した収益につなげる。 ①-2『栄養と料理』を後世に残すために、紙媒体から電子媒体への移行期間と位置付ける。 ①-3『栄養と料理』制作費の見直しについては、引き続き実施。	出版部
②年間販促計画を立て、「出版部プレ90周年」に向けて山を作り、新しい女子栄養大学出版部のイメージを世の中にアピールし、出版部の収支改善を図る。	法人 B-1	『香川綾物語（仮）』初版7000部売り切り、増刷を目標。	②-1 2024年10月～放映のNHK朝ドラ「おむすび」で、栄養士が注目されることを見込んで、この時期に、栄養士養成の草分けである本学と、栄養学の母と称される香川綾に注目が集まるよう、文芸書『香川綾物語』（仮）をはじめ、栄養士関連の書籍を刊行。	出版部

		栄養士関連本 2 タイトル、チャレンジ本 2 タイトル刊行。	②-2 これまで出版部で手掛けてこなかった実用書のチャレンジ本の刊行。	
③ 栄養計算ソフト「栄養 Pro クラウド」の売り伸ばしを図る。	法人 B-1	アカデミック版 30 校 一般ユーザー 2000 件	③-1 サブスク会員制度との連携 ③-2 使いかたセミナー等の実施 ③-3 共同開発会社 (NSK) との協力体制の強化	出版部
④ 新規団体受験校 (私立中高) を開拓  ⑤ 新規団体受験校 (企業) を開拓  ⑥ 新規個人受験者の開拓  ⑦ 受験者の学びサポートの強化  ⑧ 自治体検定の拡大を図る  ⑨ ポスター・標語コンテストの実施	法人 B-1	志願者数 3,900 人 (3,186 人)  志願志願者合計 7,000 人 (2,534 人) ポスター応募 700 人 (606 人)  標語応募 7,000 人 (5,982 人) 者合計  7,000 人目標 (2,534 人)  ポスター応募 700 人 (606 人)  標語応募 7,000 人 (5,982 人)	④ 私立の中学・高等学校、企業等へ団体受験の拡大を図る。試験方式を筆記試験から IBT へ変更に伴う団体担当者や受験生の利便性がより高まったことを DM や SNS 等で周知し、リアル説明会や営業などで新規団体受験および受験生を確保する。 ⑤ 企業での社員向け教育の一環として家庭料理検定の資格取得を取り入れてもらうよう、営業等で働きかける。 ⑥ テレビや雑誌などの広告を活用して個人受験へアピールしていく。ベターホーム協会様との連携を深め、個人受験者の増加に力を入れる。 ⑦ 過去問題集を出版し、公式ガイドと併せての活用を周知し、受験へのハードルを下げる。また、出版部と連携して公式ガイド、過去問題集などの売り上げに貢献する。 ⑧ 江東区家庭料理検定に続く、自治体検定の採用自治体を引き続き開拓する。2024年度は江戸川区で導入予定。その他の区にも順次営業する。また、荒川区、三郷市でも家庭料理検定を活用した団体受験を推進する。 ⑨ ポスター・標語コンテストの実施を継続し、大学・短期大学部・専門学校名の周知を図り、学生募集の一助となるよう努力する。	家庭料理技能検定課
⑩ 文部科学省認定社会通信教育 (オンライン講座) 「女子栄養大学ヘルシー食事学」「食と健康」の受講生の開拓 ⑪ 文部科学省認定社会通信教育 「栄養と料理講座」受講生の回復を促進	法人 B-1	申込者数 220 名 (160 人)  申込者数 745 名 (640 人)	⑩ WEB 広告での認知度を高める。また、成績情報提供サービスの導入により企業受講者の獲得に努める。 ⑪ キャンペーンの実施を行い、リニューアルしたホームページに誘導する WEB 広報に力を入れ、個人受講生の回復に努める。並行して成績情報提供サービスの導入などにより企業受講者も獲得するよう努める。資料請求者への追求 DM をメール配信で行うなど予算削減に努める。	生涯学習課

<p>⑫管理栄養士国家試験関連講座の売上増を目指す</p> <p>⑬生涯学習講師・食生活指導士のスキルアップ講座の開講</p> <p>⑭VOD 講座の新規開講</p> <p>⑮学校部の学生募集の後方支援、出版部の売上に貢献する。</p>		<p>管理栄養士関連講座売上 2, 900 万円</p> <p>(2, 500 万円)</p> <p>3 講座開講</p> <p>5 講座開講</p>	<p>⑫ 従来の顧客層には WEB 広報を強化し、ホームページへ誘導する。また、新たな顧客獲得のため、給食会社勤務の栄養士をターゲットに企業に営業をかける。</p> <p>※管理栄養士関連講座（オープン模試・ベーシック講座・eラーニング講座 2種）</p> <p>⑬ 学園の教員の専門性を活用し、対面講座を開講する</p> <p>⑭ 学園の教員の専門性を活用し、VOD 講座を開講する。</p> <p>⑮ 昨年に引き続き、香川栄養学園が持つ知的財産を活用し、社会に還元するとともに、大学、短期大学、専門学校の学生募集の後方支援を行う。また出版部との連携強化を図り売り上げに貢献する。（「栄養と料理」、参考書）</p>	
⑯代理部（サムシング）の事務処理の効率化	法人 B-1		⑯店頭レジと反映させ、学内伝票（研究室購入分）処理の電子化を進める。	代理部

(3) ガバナンス・情報公開の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【ガバナンス】</p> <p>①学校法人香川栄養学園寄附行為および関連規程の整備を行う。</p> <p>②内部統制システム整備の基本方針を制定する。</p>	法人 C-1	<p>改定規程：7</p> <p>新設規程：7</p>	<p>①寄附行為を令和7年4月施行の私立学校法に準拠した内容に改定し理事会・評議員会の審議を経て文部科学省へ申請する。</p> <p>また、関連する役員関係規程も整備する。</p> <p>②学園内部統制体制の基本方針案を検討し理事会で承認を得る。</p>	<p>秘書・企画課</p> <p>総務部、管理部</p>

(4) 危機管理体制の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【危機管理（情報セキュリティ）】</p> <p>①Microsoft365 多要素認証の学生への適用</p> <p>②ネットワーク監視システム（ふるまい検知システム）の更新</p> <p>③アカウント漏洩検知サービスの教職員への適用</p>	法人 C-1		<p>①学生についても Microsoft365 の多要素認証を活用し、不正アクセスへの対策を強化する。但し適用条件については検討を要す。</p> <p>②2024年9月30日でサポートの切れるネットワーク監視システム（ふるまい検知システム）を更新する。</p> <p>③利用者が自らアカウント漏洩のチェックを行うことのできるサービスを教職員に適用する。</p>	情報・ネットワーク課

(5) 校舎・施設整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
------	---------	-----	------	-----------

①【駒込キャンパス】 再整備計画の基本構想・企画設計をとりまとめる。	法人 D-1 (校舎整備)		基本構想と企画を立案する。	管理部
②【坂戸キャンパス】 学生サービス向上や教育研究環境の充実を目的として、4号館階段教室の活用を軸とする「施設の有効活用」をプロジェクト化し、計画と設計をまとめるとともに、一部を実施する。	法人 D-2 (施設整備)		設計企画案をまとめ、運用とすり合わせる。	坂戸管理課
③【全体運営】 デジタル化・ペーパーレス化促進の一環として、クラウド電話の導入、集中書類保管庫の設置、印刷系機器の削減を行う。	法人 D-2 (施設整備)		R6 年度中に Teams 電話へ移行する。(管理、情報・ネットワーク) R6 年度中に集中書類保管庫を設置し、廃棄管理を含めた書類管理と保管のしくみを構築する。(管理) ペーパーレス化の進捗度合いを注視しつつ、印刷機器の削減を適時行う。	管理部、情報・ネットワーク部

(6) 卒業生とのネットワーク・社会連携

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
①綾栄会法人会員向けに「感謝の集い(仮称)」を企画し開催する。	法人 E-2	対象会員 100 社	綾栄会募金では、昨年度個人会員向けに返礼品を提供し謝意を表した。 今年度は、法人会員向け企画を実施し学園創立百周年に繋げていきたい。	秘書企画課

3 財政改革

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
<b>【財源確保】</b> ①従来の予算編成基準の見直しを図る。 ②学納金に依存する収入構造の改善を図る。 ③外部資金、競争的資金の獲得のため、従来のシステムの見直しを図る。	財政 A-1 財政 A-2 財政 A-3		①学費改訂や入学者減による減収に伴い、経費削減はもとより支出抑制を全ての支出項目で行い、プライオリティーを付した予算とし執行管理をする。 ②コロナ禍の終息に伴い、事業部、付帯事業部の活性を促し、2018 年度実績ベースまで戻すことを目標とする。 ③補助金対象項目の見直し、研究活動の推進により連携事業の獲得、科研費への申請増を図るなど、外部資金の獲得を目指す。	経理部

予算編成にあたって

【予算申請にあたっての留意点】

1. 2023 年度予算編成時に過去の実績ベースを基に編成しましたが、結果として経常収支 差額が 2 億 6 千万円の赤字予算を組むことになってしまいました。更に 2024 年度には 2023 年度予算よりも 1 億円以上の学生生徒納付金減少が見込まれており、学生生徒等納付金は 40 億円を初めて切り、事業収入も 50 億円を下回ることが予測されています。2022 年度決算の経常的な事業支出が 52 億円であることから、決算ベースで 2 億円相当の赤字が予測できます。これまでは、予実算の差があったために予算額が膨れ上がっているケースもありましたが、今年度は、ほぼ収支が均衡し、来年度については赤字に転落する可能性が大きいと考えられます。したがって、



これまでの実績をベースにすることはせず、0 ベースでの予算要求、予算計画の立案を必須とします。2024 年度予算要求においては、積み上げホームページ方式とします。科目ごとに積算基礎を示していただき、必要不可欠なものだけ要求をお願いします。

2. コロナ禍の影響については、2023 年度を持って特別予算を終了とします。したがって、通常予算に戻りますのでご承知おきください。

3. 収支対応の事業については、2023 年度に 3 カ年計画を提出して頂きましたが、2024 年度予算要求にあたっては、計画の進捗状況を鑑み要求に反映してください。

4. 新規案件については、別途要求書を提出して頂くことにします。新規案件については、ヒアリングを行った後に採否を決定する方式にします。したがって、新規予算申請が必要と判断される場合は経費の捻出においても部署内で対応が可能であるかの検討をお願いします。また費用対効果についても分析し、特に事業部においては投資を何年で回収できるかについての予測もお願いします。

5. IT 技術の活用等も含め経費節減を目指した将来構想を各部署で検討願います。言うまでもありませんが、IT 関係は時として非常に大きな投資を伴いますので、費用対効果を長期的な視野に立って十分かつ慎重に分析し、導入によって明確な効果が期待できるという確証を得るようにしてください。

注) : 中期計画コード : 中期計画の区分 A・B・C と区分下の 1・2・3 を組み合わせた符号をコードと呼ぶ